

NS物流研究会「物流関連ゼミ」学生による研究発表

NS物流研究会(樋口恵一会長)が11月10日に開いた第4回物流関連ゼミ生による研究発表会で、「トラック業界に若者を〜若者の声を取り入れて」をテーマに、若年労働力確保方策を取り上げた東京海洋大学黒川ゼミBチームが優勝した。海洋工学部流通情報工学科の太田千絵さんら6人による研究発表の概要を再録する。



優勝トロフィーを手にメンバーで記念撮影

東京海洋大学黒川ゼミBチーム 「トラック業界に若者を〜若者の声を取り入れて」

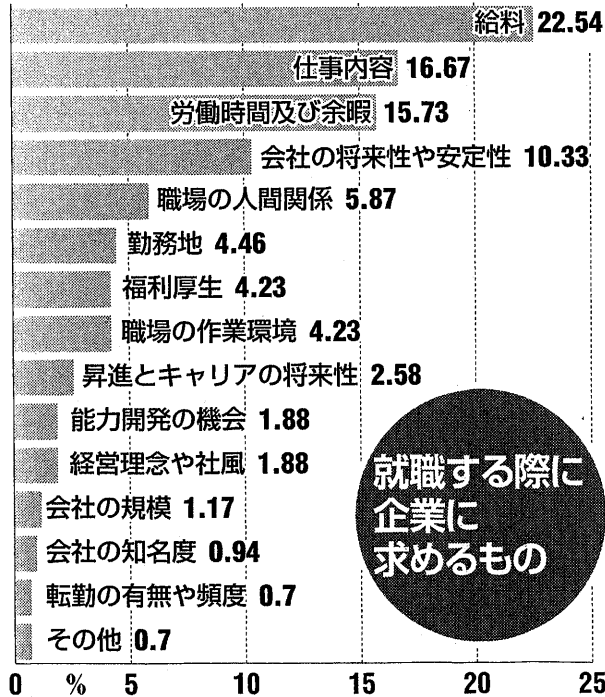
若者へのアンケート

12年10月に東京海洋大学海工学部学生147人、エリートを実施。トラック業界と、実際の若者とのイメージを調査し、就職する際に企業に求めるものを調査した。トラック業界の重要性は大学生の91%、物流を学んでいない中高生でも68%が「重要」と回答。ドライバーの態度も「普通」がどちらも7割以上で、運転マナーが「安全」でそれぞれ14%、13%、「普通」は40%、38%と、トラック業界の取り組みの成果が表われ、いずれも悪いイメージではない。ところが、仕事の安全性では「危険」が55%、52%と過半数が危険のイメージを持っている。また、

Table comparing industry and youth perceptions. Columns: Industry's perception of youth, Youth's actual perception. Rows: Importance recognition, Driver image, Labor environment (dangerousness), Labor environment (working hours).

危険・長時間勤務に悪印象

若者が就職する際、企業に求めるものは「給料」「仕事内容」「労働時間及び休暇」の順で、主に「単純な作業」「年を取ったら働かなくなる」と考えている。あるトラック会社の求人票を見ると、仕事内容、必要資格、給与、勤務時間、福利厚生といった項目はそろっているが、ドライバーの経験やスキルに関する記載がほとんどない。また、



就職する際に企業に求めるもの

トラック業界の現状

私たちはドライバーの高齢化が進むトラック業界が、いかに若者を確保できるかを、国土交通省の統計によると、国内貨物輸送量の増減により、92.2%とトップで、東日(トシキョ)に対する従業員数をグラフ化すると、従業員一人当たりの貨物輸送量は2006年から増加している。4万本、毛布45万枚などを被

安全性アピール 労働環境改善を

平均賃金の低さ

全下協の賃金実態調査で他産業と平均賃金(月給)を比較すると、トラック業界の30万2000円に対し、全産業は35万4000円で、5万円少ない。ここに一つの問題がある。低賃金は規制緩和後に運賃が下がって、コストは上がり、企業として存続するために人件費を下げていることが原因だ。原価計算を行い、収益確保とコスト削減に努め、収益アップにつなげなければならぬ。

若者が企業に求めるもの

若者が就職する際、企業に求めるものは「給料」「仕事内容」「労働時間及び休暇」の順で、主に「単純な作業」「年を取ったら働かなくなる」と考えている。あるトラック会社の求人票を見ると、仕事内容、必要資格、給与、勤務時間、福利厚生といった項目はそろっているが、ドライバーの経験やスキルに関する記載がほとんどない。また、

(HP)充実度ランキングをみると、産業別では陸運業が29位、倉庫業・運輸関連業30位と評価は低い。ランキング1位の企業の求人票はほかの求人票とあまり変わらないが、HPをみると、教育研修などのバックアップ制度の説明があったり、先輩社員の声、仕事風景など会社をイメージしやすい内容になっている。以上のようなことを踏まえ、求人票に将来の不安を無くすためキャリアパスを記載すること、求人票だけではなくHP等を利用した豊富な情報提供を行い、将来のキャリアアップのイメージを伝えることを提案したい。